

ピロリ菌感染症治療は胃がんゼロを目指して進化！

すべてのピロリ菌感染症患者さんは、
内視鏡検査を前提に保険適応で除菌可能です！

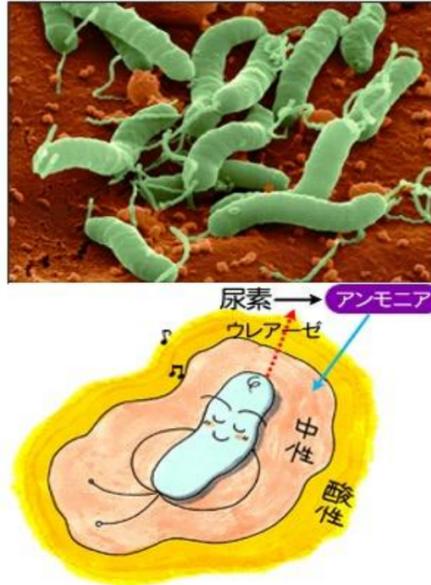
胃がんは予防可能ながんです

ピロリ菌陽性胃炎は一生涯で10人に1人が胃がんを発症すると言われています。しかし、ピロリ菌の治療（除菌）を行うことで、胃がんの発生を1/3以下に抑えることができます。若いうちに除菌すると、ほぼ完全に胃がんを予防できます。

ヘリコバクター・ピロリ菌 *H. pylori*

なぜ強酸性の胃の中(胃の酸度はpH1~2)でも生きられるのか？

- らせん状のグラム陰性桿菌
- 長さ2.5~5.0μm
- ✓ピロリ菌が活動するのに最適なpHは6~7で、4以下ではピロリ菌は生きられない
- ✓ピロリ菌の持つ**ウレアーゼ**という酵素によって胃の中の**尿素**という物質から**アンモニア**を作り出す。
- ✓**アンモニア**はアルカリ性で**胃酸**を中和する。



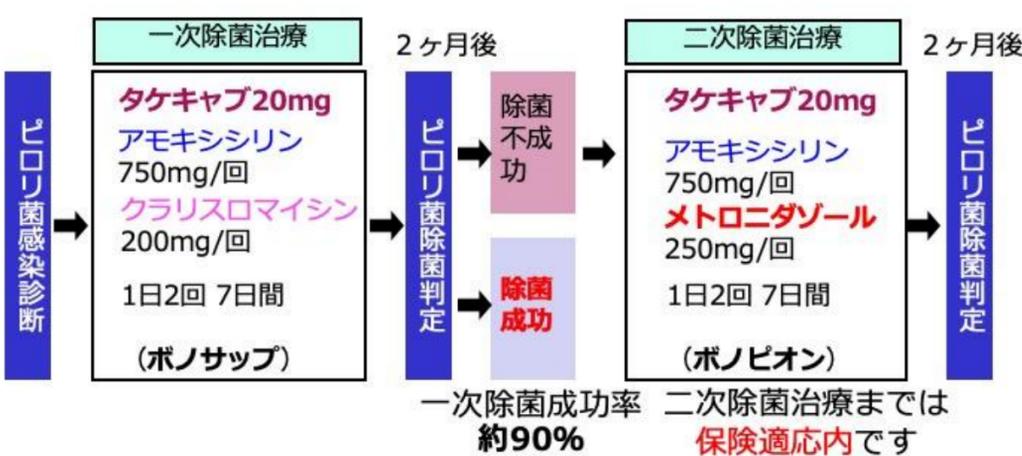
ピロリ菌感染胃炎には重大な病気が合併しやすい



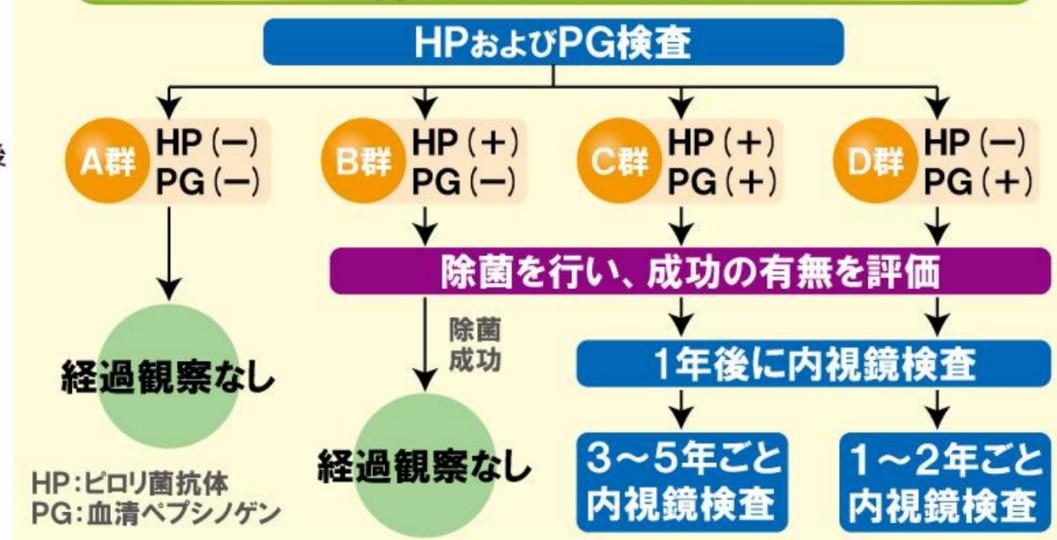
- ピロリ菌感染は、免疫機能の未熟な5歳までに感染し、多くは経口感染です。
- 慢性胃炎はほとんどがピロリ菌感染による慢性炎症で、胃十二指腸潰瘍や胃がんなど様々な疾患と関係が深いのです。
- ほとんどの胃がんはピロリ菌による慢性胃炎を基盤に発生します。
- 除菌することで、潰瘍は再発しなくなり、胃がんの発生も減少します。

ピロリ菌除菌治療の流れ

プロトンポンプ阻害薬 + 抗菌薬2剤 1週間内服



胃がんゼロをめざして



ピロリ菌外来 (月・水・木 午前)

内視鏡検査
慢性胃炎の確認
胃がんの除外

ピロリ菌検査
血中抗体
尿素呼気試験

除菌治療
一次除菌90%

効果判定
尿素呼気試験
便抗原

- ※検診でピロリ菌検査を行った方は検査結果をお持ちください。
- ※除菌治療は副作用（薬剤アレルギー、下痢、軟便、味覚異常など）にも注意が必要です。
- ※2回の治療で除菌できない場合は三次除菌を行いますが、保険適応外となりますので自費診療（約1.7万円）となります。
- ※除菌後は胃がんのリスクによって1~3年毎に内視鏡検査を受けていただきます。